

鍼灸スポーツ科学科2年生

令和8年度 シラバス

氏名 _____

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	解剖生理学 I			授業形態	講義	教員	樋口 勝広		No. 17																														
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																														
授業概要	解剖学は生体の正常な構造を、生理学は生体の持つ様々な機能およびその調節機構を理解するための学問であり、この2つは全ての臨床医学の根幹となる学問である。本講義では運動器系と神経系を学ぶことにより、臨床やスポーツなどの現場に必要な知識と結びつけて学んでいく。																																						
授業の到達目標	運動器と神経に関与する解剖学と生理学の理解を深め、臨床やスポーツ現場などに活用ができる知識を身につける。																																						
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 人体の構成 生理学の基礎</td> <td>第16週目 解剖学・内分泌系 生理学・内分泌</td> </tr> <tr> <td>第2週目 神経系の解剖学①中枢神経系</td> <td>第17週目 内分泌系の生理学①</td> </tr> <tr> <td>第3週目 神経系の解剖学②末梢神経系・脳神経</td> <td>第18週目 内分泌系の生理学②</td> </tr> <tr> <td>第4週目 神経系の解剖学③末梢神経系・脊髄神経</td> <td>第19週目 内分泌系の生理学③</td> </tr> <tr> <td>第5週目 神経系の生理学①基礎～</td> <td>第20週目 泌尿器の解剖生理学</td> </tr> <tr> <td>第6週目 神経系の生理学②神経伝達物質～</td> <td>第21週目 生殖・成長と老化</td> </tr> <tr> <td>第7週目 神経系の生理学③伝導路について</td> <td>第22週目 消化器系の解剖学①</td> </tr> <tr> <td>第8週目 感覚器系の解剖学 特殊感覚</td> <td>第23週目 消化器系の解剖学②</td> </tr> <tr> <td>第9週目 感覚器系の生理学 特殊感覚</td> <td>第24週目 消化と吸収①</td> </tr> <tr> <td>第10週目 感覚器系の解剖学 表在感覚</td> <td>第25週目 消化と吸収②</td> </tr> <tr> <td>第11週目 感覚器系の生理学 表在感覚</td> <td>第26週目 生理学・代謝</td> </tr> <tr> <td>第12週目 筋肉の生理学</td> <td>第27週目 生理学・体温</td> </tr> <tr> <td>第13週目 運動の生理学 反射について</td> <td>第28週目 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期期末試験の解説</td> <td>第30週目 後期期末試験の解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>1年時の解剖学Ⅱ・生理学Ⅰ・生理学Ⅱの復習を行う。 主にプリントを配布し、パワーポイントを使用し授業を行う。 各々プリントをもとに教科書を熟読すること。 国家試験の科目でもある為、その都度復習を必ず行うこと。 欠席等での後からプリントの請求は次の授業前までに職員室にて行うこと。 自学自習については、特に大事な部分の「まとめ資料」及び問題集を配付いたします。それを中心に学習してください。</p>									第1週目 人体の構成 生理学の基礎	第16週目 解剖学・内分泌系 生理学・内分泌	第2週目 神経系の解剖学①中枢神経系	第17週目 内分泌系の生理学①	第3週目 神経系の解剖学②末梢神経系・脳神経	第18週目 内分泌系の生理学②	第4週目 神経系の解剖学③末梢神経系・脊髄神経	第19週目 内分泌系の生理学③	第5週目 神経系の生理学①基礎～	第20週目 泌尿器の解剖生理学	第6週目 神経系の生理学②神経伝達物質～	第21週目 生殖・成長と老化	第7週目 神経系の生理学③伝導路について	第22週目 消化器系の解剖学①	第8週目 感覚器系の解剖学 特殊感覚	第23週目 消化器系の解剖学②	第9週目 感覚器系の生理学 特殊感覚	第24週目 消化と吸収①	第10週目 感覚器系の解剖学 表在感覚	第25週目 消化と吸収②	第11週目 感覚器系の生理学 表在感覚	第26週目 生理学・代謝	第12週目 筋肉の生理学	第27週目 生理学・体温	第13週目 運動の生理学 反射について	第28週目 まとめ	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 前期期末試験の解説	第30週目 後期期末試験の解説
第1週目 人体の構成 生理学の基礎	第16週目 解剖学・内分泌系 生理学・内分泌																																						
第2週目 神経系の解剖学①中枢神経系	第17週目 内分泌系の生理学①																																						
第3週目 神経系の解剖学②末梢神経系・脳神経	第18週目 内分泌系の生理学②																																						
第4週目 神経系の解剖学③末梢神経系・脊髄神経	第19週目 内分泌系の生理学③																																						
第5週目 神経系の生理学①基礎～	第20週目 泌尿器の解剖生理学																																						
第6週目 神経系の生理学②神経伝達物質～	第21週目 生殖・成長と老化																																						
第7週目 神経系の生理学③伝導路について	第22週目 消化器系の解剖学①																																						
第8週目 感覚器系の解剖学 特殊感覚	第23週目 消化器系の解剖学②																																						
第9週目 感覚器系の生理学 特殊感覚	第24週目 消化と吸収①																																						
第10週目 感覚器系の解剖学 表在感覚	第25週目 消化と吸収②																																						
第11週目 感覚器系の生理学 表在感覚	第26週目 生理学・代謝																																						
第12週目 筋肉の生理学	第27週目 生理学・体温																																						
第13週目 運動の生理学 反射について	第28週目 まとめ																																						
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																						
第15週目 前期期末試験の解説	第30週目 後期期末試験の解説																																						
教科書・参考書等	<p>教科書：医歯薬出版株式会社『解剖生理学』を使用する。</p> <p>参考資料：医歯薬出版株式会社『生理学・解剖学』を使用する。</p>																																						
成績評価の方法	<p>1)前期期末試験50%(100点満点) 2)後期期末試験50%(100点満点) 上記評価の総合成績が120/200点(60%)以上とする。</p>																																						
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。																																						

授業科目名	病理学概論		授業形態	講義	教員	鈴木 亮太		No.	18
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生
授業概要	1. 炎症や循環障害などの基本的病変について、正常との違いを踏まえた基礎的事項を説明できるようにする。 2. 病理学的視点を踏まえて、各疾患の成因および病態について説明できるようにする。								
授業の到達目標	1. 炎症、循環障害などの基本的病変について、正常構造・機能との違いを踏まえ、主要な用語を用いて説明することができる。 2. 各基本的病変の発生機序および進行過程について、順序立てて説明することができる。 3. 代表的な疾患について、その成因および病態を病理学的視点から体系的に説明することができる。								
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 第1章 病理学とは 第2週目 第2章 疾病についての考え方 第3週目 第3章 病因について① 第4週目 第3章 病因について② 第5週目 第4章 循環器障害について① 第6週目 第4章 循環器障害について② 第7週目 第5章 退行性病変について① 第8週目 第6章 進行性病変について① 第9週目 第7章 炎症について① 第10週目 第8章 腫瘍について① 第11週目 第8章 腫瘍について② 第12週目 第9章 免疫異常について① 第13週目 第9章 免疫異常について② 第14週目 第10章 先天性異常について 第15週目 前期期末試験 第16週目 外因 感染症① 第17週目 外因 感染症② 第18週目 外因 感染症③ 第19週目 退行性病変 生活習慣病(代謝栄養疾患)① 第20週目 退行性病変 生活習慣病(代謝栄養疾患)② 第21週目 退行性病変 生活習慣病(代謝栄養疾患)③ 第22週目 血液系疾患(赤血球) ① 第23週目 血液系疾患(白血球・血小板)② 第24週目 血液系疾患(リンパ系)③ 第25週目 循環障害 循環器系疾患① 第26週目 循環障害 循環器系疾患② 第27週目 循環障害 循環器系疾患③ 第28週目 循環障害 循環器系疾患④ 第29週目 後期期末試験 第30週目 試験の解答・解説 後期の総復習 (授業の方法および自学学習について) 1) 学習方法: 主にプリントを配布し、教室で授業を行う。 2) 欠席により授業の配布資料を受け取れなかった場合、次の授業開始前までに、担当教員に資料を受け取りに行くこと。 3) 後期には各範囲ごとの確認テストを行う。欠席等で受けられなかった場合は、後日、担当教員から用紙を受け取り、問題を解いて担当教員からの確認を受けること。								
教科書・参考書等	教科書: 医歯薬出版「病理学概論」 参考書: メディックメディア発行「病気が見える シリーズ」 医学書院出版「系統看護学講座 微生物学」								
成績評価の方法	前期成績評価 ①前期期末試験50%(100点満点) 後期成績評価 ①後期期末試験45%(90点満点) ②各範囲ごとの確認テスト5%(10点):各2%(4点) 前期後期末試験総合成績 120/200点(60%)以上とする。 ※各範囲ごとの確認テスト60%未満の場合は、再確認テスト60%以上で2%(4点)とする。 ※各範囲ごとの確認テストの評価は、総計10点の範囲内で行うものとする。								
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。								

授業科目名	臨床医学各論 I		授業形態	講義	教員	大渡 光弘		No.	19		
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生		
授業概要	各疾病について、成因、疫学、病態生理、主要な症状、検査所見などについて学んでいきます。										
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各疾患の原因を説明できる。 各疾患の最も特徴的な症状を答えられる。 疾患を確定するための検査およびその所見を説明できる。 										
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>第1週目 第8章 整形外科疾患①関節疾患</p> <p>第2週目 第8章 整形外科疾患①骨疾患・骨腫瘍</p> <p>第3週目 第8章 整形外科疾患②筋・腱疾患</p> <p>第4週目 第8章 整形外科疾患②脊椎疾患</p> <p>第5週目 第8章 整形外科疾患③脊椎疾患</p> <p>第6週目 第8章 整形外科疾患④脊髄損傷 外傷</p> <p>第7週目 第8章 整形外科疾患④その他</p> <p>第8週目 第2章消化器疾患 口腔疾患</p> <p>第9週目 第2章消化器疾患 食道疾患 胃・十二指腸疾患・胃炎</p> <p>第10週目 第2章消化器疾患 慢性胃炎～十二指腸憩</p> <p>第11週目 第2章消化器疾患 急性腸炎～大腸癌</p> <p>第12週目 第2章消化器疾患 イレウス～腹膜疾患</p> <p>第13週目 前期復習</p> <p>第14週目 前期末試験</p> <p>第15週目 試験解説まとめ</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>第16週目 第3章肝・胆・膵疾患 肝胆膵臓の解剖生理</p> <p>第17週目 第3章肝・胆・膵疾患 急性・慢性肝炎</p> <p>第18週目 第3章肝・胆・膵疾患 肝硬変～胆石症</p> <p>第19週目 第3章肝・胆・膵疾患 胆嚢炎～膵臓疾患</p> <p>第20週目 第4章呼吸器疾患① 感染性呼吸器疾患</p> <p>第21週目 第4章呼吸器疾患② 閉塞性呼吸器疾患</p> <p>第22週目 第4章呼吸器疾患③ 拘束性呼吸器疾患</p> <p>第23週目 第5章腎・尿器疾患 原発性糸球体腎炎</p> <p>第24週目 第5章腎・尿器疾患 腎不全～腎盂炎</p> <p>第25週目 第5章腎・尿器疾患 膀胱炎～前立腺癌</p> <p>第26週目 第6章内分泌疾患① 下垂体疾患</p> <p>第27週目 第6章内分泌疾患② 甲状腺疾患</p> <p>第28週目 第6章内分泌疾患③ 副腎疾患</p> <p>第29週目 後期末試験</p> <p>第30週目 試験解説とまとめ</p> </td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>主にプリントを配布し、パワーポイントを使用し授業を行う。 各々プリントをもとに教科書を熟読すること。 国家試験の科目でもある為、その都度復習を必ず行うこと。 欠席等での後からプリントの請求は次の授業前までに職員室にて行うこと。 自学自習については、特に大事な部分を、「まとめ資料」として配付いたします。それを中心に学習してください。</p>									<p>第1週目 第8章 整形外科疾患①関節疾患</p> <p>第2週目 第8章 整形外科疾患①骨疾患・骨腫瘍</p> <p>第3週目 第8章 整形外科疾患②筋・腱疾患</p> <p>第4週目 第8章 整形外科疾患②脊椎疾患</p> <p>第5週目 第8章 整形外科疾患③脊椎疾患</p> <p>第6週目 第8章 整形外科疾患④脊髄損傷 外傷</p> <p>第7週目 第8章 整形外科疾患④その他</p> <p>第8週目 第2章消化器疾患 口腔疾患</p> <p>第9週目 第2章消化器疾患 食道疾患 胃・十二指腸疾患・胃炎</p> <p>第10週目 第2章消化器疾患 慢性胃炎～十二指腸憩</p> <p>第11週目 第2章消化器疾患 急性腸炎～大腸癌</p> <p>第12週目 第2章消化器疾患 イレウス～腹膜疾患</p> <p>第13週目 前期復習</p> <p>第14週目 前期末試験</p> <p>第15週目 試験解説まとめ</p>	<p>第16週目 第3章肝・胆・膵疾患 肝胆膵臓の解剖生理</p> <p>第17週目 第3章肝・胆・膵疾患 急性・慢性肝炎</p> <p>第18週目 第3章肝・胆・膵疾患 肝硬変～胆石症</p> <p>第19週目 第3章肝・胆・膵疾患 胆嚢炎～膵臓疾患</p> <p>第20週目 第4章呼吸器疾患① 感染性呼吸器疾患</p> <p>第21週目 第4章呼吸器疾患② 閉塞性呼吸器疾患</p> <p>第22週目 第4章呼吸器疾患③ 拘束性呼吸器疾患</p> <p>第23週目 第5章腎・尿器疾患 原発性糸球体腎炎</p> <p>第24週目 第5章腎・尿器疾患 腎不全～腎盂炎</p> <p>第25週目 第5章腎・尿器疾患 膀胱炎～前立腺癌</p> <p>第26週目 第6章内分泌疾患① 下垂体疾患</p> <p>第27週目 第6章内分泌疾患② 甲状腺疾患</p> <p>第28週目 第6章内分泌疾患③ 副腎疾患</p> <p>第29週目 後期末試験</p> <p>第30週目 試験解説とまとめ</p>
<p>第1週目 第8章 整形外科疾患①関節疾患</p> <p>第2週目 第8章 整形外科疾患①骨疾患・骨腫瘍</p> <p>第3週目 第8章 整形外科疾患②筋・腱疾患</p> <p>第4週目 第8章 整形外科疾患②脊椎疾患</p> <p>第5週目 第8章 整形外科疾患③脊椎疾患</p> <p>第6週目 第8章 整形外科疾患④脊髄損傷 外傷</p> <p>第7週目 第8章 整形外科疾患④その他</p> <p>第8週目 第2章消化器疾患 口腔疾患</p> <p>第9週目 第2章消化器疾患 食道疾患 胃・十二指腸疾患・胃炎</p> <p>第10週目 第2章消化器疾患 慢性胃炎～十二指腸憩</p> <p>第11週目 第2章消化器疾患 急性腸炎～大腸癌</p> <p>第12週目 第2章消化器疾患 イレウス～腹膜疾患</p> <p>第13週目 前期復習</p> <p>第14週目 前期末試験</p> <p>第15週目 試験解説まとめ</p>	<p>第16週目 第3章肝・胆・膵疾患 肝胆膵臓の解剖生理</p> <p>第17週目 第3章肝・胆・膵疾患 急性・慢性肝炎</p> <p>第18週目 第3章肝・胆・膵疾患 肝硬変～胆石症</p> <p>第19週目 第3章肝・胆・膵疾患 胆嚢炎～膵臓疾患</p> <p>第20週目 第4章呼吸器疾患① 感染性呼吸器疾患</p> <p>第21週目 第4章呼吸器疾患② 閉塞性呼吸器疾患</p> <p>第22週目 第4章呼吸器疾患③ 拘束性呼吸器疾患</p> <p>第23週目 第5章腎・尿器疾患 原発性糸球体腎炎</p> <p>第24週目 第5章腎・尿器疾患 腎不全～腎盂炎</p> <p>第25週目 第5章腎・尿器疾患 膀胱炎～前立腺癌</p> <p>第26週目 第6章内分泌疾患① 下垂体疾患</p> <p>第27週目 第6章内分泌疾患② 甲状腺疾患</p> <p>第28週目 第6章内分泌疾患③ 副腎疾患</p> <p>第29週目 後期末試験</p> <p>第30週目 試験解説とまとめ</p>										
教科書・参考書等	教科書：医歯薬出版「臨床医学各論」 参考書：(株)メディックメディア「病気がみえる」										
成績評価の方法	前期成績評価 ①前期期末試験45%(90点満点) ②各章(整形外科分野別毎)毎の到達度テスト(60%以上)5%(10点)・・・各1%(2点) 後期評価 ①後期期末試験45%(90点満点) ②各章(整形外科分野別毎)毎の到達度テスト5%(10点)・・・各1%(2点) 前期後期末試験総合成績 120/200点(60%)以上とする。 ※各毎の到達度テスト60%未満の場合は、再到達度テスト60%以上で1%(2点)とする。										
実践的教育に関する経歴等	整形外科・鍼灸院・接骨院の勤務歴有り。										

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	臨床医学総論			授業形態	講義	教員	神谷 美香		No.	20																														
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																															
授業概要	<p>各種検査法を学ぶことで疾患の概要を理解し、臨床を想定した患者対応ができるようになる。検査数値の異常から疾患を考えることができる。症候から疾患を考えることができる。治療法の種類を覚え、医療現場での情報共有ができる。患者心理を理解することができる。</p>																																							
授業の到達目標	<p>各種検査法を学ぶことで、疾患の診断、鑑別、除外診断の基礎を習得する。</p>																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 ガイダンス, 診察の概要</td> <td>第16週目 心臓, 腹部, 背部</td> </tr> <tr> <td>第2週目 医療面接, 視診, 触診</td> <td>第17週目 四肢, 神経系の診察—感覚検査法</td> </tr> <tr> <td>第3週目 打診, 聴診, 測定法</td> <td>第18週目 反射検査, 脳神経の検査,</td> </tr> <tr> <td>第4週目 神経系の診察</td> <td>第19週目 髄膜刺激症状, その他</td> </tr> <tr> <td>第5週目 生命徴候(バイタルサイン)の診察</td> <td>第20週目 運動機能検査—運動麻痺, 筋肉の異常</td> </tr> <tr> <td>第6週目 全身の診察—顔貌, 顔色, 精神状態</td> <td>第21週目 不随意運動, 協調運動</td> </tr> <tr> <td>第7週目 言語, 身体計測, 体型・体格</td> <td>第22週目 起立と歩行, ROM, MMT</td> </tr> <tr> <td>第8週目 栄養状態, 姿勢と体位, 歩行</td> <td>第23週目 日常生活動作, 整形外科検査法,</td> </tr> <tr> <td>第9週目 皮膚, 粘膜, 皮下組織, 爪の状態</td> <td>第24週目 救急時の診察, 女性の診察</td> </tr> <tr> <td>第10週目 リンパ節, その他の一般的状態</td> <td>第25週目 小児の診察, 高齢者の診察</td> </tr> <tr> <td>第11週目 局所の診察—頭部, 顔面, 眼</td> <td>第26週目 一般検査</td> </tr> <tr> <td>第12週目 眼, 鼻, 耳, 口腔</td> <td>第27週目 血液生化学検査</td> </tr> <tr> <td>第13週目 頸部, 胸部, 乳房, 肺・胸膜</td> <td>第28週目 生理学的検査及び画像診断の概要</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 試験解説</td> <td>第30週目 試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)プリント, パワーポイントを使用し授業を行うことを基本とする。 2)その日の内容は各自復習する。 3)欠席した場合は次回の授業までに配布物を取りに来ること。 4)検査法の実技も行うので, 手足を出せて, 動きやすい服装が好ましい。 5)日直は授業前に準備するものがないか職員室まで確認に来ること。 										第1週目 ガイダンス, 診察の概要	第16週目 心臓, 腹部, 背部	第2週目 医療面接, 視診, 触診	第17週目 四肢, 神経系の診察—感覚検査法	第3週目 打診, 聴診, 測定法	第18週目 反射検査, 脳神経の検査,	第4週目 神経系の診察	第19週目 髄膜刺激症状, その他	第5週目 生命徴候(バイタルサイン)の診察	第20週目 運動機能検査—運動麻痺, 筋肉の異常	第6週目 全身の診察—顔貌, 顔色, 精神状態	第21週目 不随意運動, 協調運動	第7週目 言語, 身体計測, 体型・体格	第22週目 起立と歩行, ROM, MMT	第8週目 栄養状態, 姿勢と体位, 歩行	第23週目 日常生活動作, 整形外科検査法,	第9週目 皮膚, 粘膜, 皮下組織, 爪の状態	第24週目 救急時の診察, 女性の診察	第10週目 リンパ節, その他の一般的状態	第25週目 小児の診察, 高齢者の診察	第11週目 局所の診察—頭部, 顔面, 眼	第26週目 一般検査	第12週目 眼, 鼻, 耳, 口腔	第27週目 血液生化学検査	第13週目 頸部, 胸部, 乳房, 肺・胸膜	第28週目 生理学的検査及び画像診断の概要	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 試験解説	第30週目 試験解説
第1週目 ガイダンス, 診察の概要	第16週目 心臓, 腹部, 背部																																							
第2週目 医療面接, 視診, 触診	第17週目 四肢, 神経系の診察—感覚検査法																																							
第3週目 打診, 聴診, 測定法	第18週目 反射検査, 脳神経の検査,																																							
第4週目 神経系の診察	第19週目 髄膜刺激症状, その他																																							
第5週目 生命徴候(バイタルサイン)の診察	第20週目 運動機能検査—運動麻痺, 筋肉の異常																																							
第6週目 全身の診察—顔貌, 顔色, 精神状態	第21週目 不随意運動, 協調運動																																							
第7週目 言語, 身体計測, 体型・体格	第22週目 起立と歩行, ROM, MMT																																							
第8週目 栄養状態, 姿勢と体位, 歩行	第23週目 日常生活動作, 整形外科検査法,																																							
第9週目 皮膚, 粘膜, 皮下組織, 爪の状態	第24週目 救急時の診察, 女性の診察																																							
第10週目 リンパ節, その他の一般的状態	第25週目 小児の診察, 高齢者の診察																																							
第11週目 局所の診察—頭部, 顔面, 眼	第26週目 一般検査																																							
第12週目 眼, 鼻, 耳, 口腔	第27週目 血液生化学検査																																							
第13週目 頸部, 胸部, 乳房, 肺・胸膜	第28週目 生理学的検査及び画像診断の概要																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 試験解説	第30週目 試験解説																																							
教科書・参考書等	「臨床医学総論」医歯薬出版株式会社 および 配布プリント																																							
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1)前期期末試験50%(100点満点) 2)後期期末試験50%(100点満点) <p>上記評価の総合成績が120/200点(60%)以上とする。</p>																																							
実践的教育に関する経歴等	<ol style="list-style-type: none"> ①鍼師・灸師・あん摩マッサージ指圧師 ②鍼灸マッサージ教員免許 ③鍼灸マッサージ院勤務 																																							

授業科目名	リハビリテーション医学			授業形態	講義	教員	南洞 大宥		No.	21																														
科目区分	専門基礎分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																															
授業概要	リハビリテーションの幅広い概念を把握し、各疾患に対するリハビリテーションに必要な知識を理解する。																																							
授業の到達目標	現在リハビリテーション医学の知識は、治療院・介護施設・スポーツトレーナーなど、幅広い分野で求められている。リハビリテーションの概念、特徴を理解することにより様々な現場に対応できる知識・技術の基本となるものについて学習していく。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 リハビリテーション医学・医療①</td> <td>第16週目 関節リウマチ</td> </tr> <tr> <td>第2週目 リハビリテーション医学・医療②</td> <td>第17週目 脳血管障害①</td> </tr> <tr> <td>第3週目 診断・評価学①</td> <td>第18週目 脳血管障害②</td> </tr> <tr> <td>第4週目 診断・評価学②</td> <td>第19週目 脳血管障害③</td> </tr> <tr> <td>第5週目 運動療法と物理療法①</td> <td>第20週目 脳血管障害④</td> </tr> <tr> <td>第6週目 運動療法と物理療法②</td> <td>第21週目 パーキンソン病</td> </tr> <tr> <td>第7週目 作業療法と言語聴覚療法</td> <td>第22週目 呼吸器疾患①</td> </tr> <tr> <td>第8週目 補装具、自助具、福祉用具</td> <td>第23週目 呼吸器疾患②</td> </tr> <tr> <td>第9週目 切断</td> <td>第24週目 虚血性心疾患①</td> </tr> <tr> <td>第10週目 脊髄損傷①</td> <td>第25週目 虚血性心疾患②</td> </tr> <tr> <td>第11週目 脊髄損傷②</td> <td>第26週目 高齢者に多くみられる疾患①</td> </tr> <tr> <td>第12週目 脊髄損傷③</td> <td>第27週目 高齢者に多くみられる疾患②</td> </tr> <tr> <td>第13週目 脊髄損傷④</td> <td>第28週目 小児疾患</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 試験解説</td> <td>第30週目 試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)教科書を使用し授業を行うことを基本とする。 2)教科書の第Ⅰ部第2章の運動学は運動学の授業で行う。 3)教科書の第Ⅰ部第3章の形態計測、ROM、MMT、徒手検査法は臨床鍼灸学Ⅳの授業で行う。 4)教科書の第Ⅱ部第1章整形外科疾患の脊髄損傷・切断・関節リウマチ以外は東洋医学臨床論Ⅲの授業で行う。 5)教科書の第Ⅱ部第2章神経疾患の脳血管障害・パーキンソン病、第Ⅱ部第3章内部障害の虚血性心疾患・呼吸器疾患以外は臨床医学各論Ⅰ・Ⅱの授業で行う。 6)教科書の第Ⅱ部第4章がんは臨床医学各論Ⅰ・Ⅱの授業で行う。 										第1週目 リハビリテーション医学・医療①	第16週目 関節リウマチ	第2週目 リハビリテーション医学・医療②	第17週目 脳血管障害①	第3週目 診断・評価学①	第18週目 脳血管障害②	第4週目 診断・評価学②	第19週目 脳血管障害③	第5週目 運動療法と物理療法①	第20週目 脳血管障害④	第6週目 運動療法と物理療法②	第21週目 パーキンソン病	第7週目 作業療法と言語聴覚療法	第22週目 呼吸器疾患①	第8週目 補装具、自助具、福祉用具	第23週目 呼吸器疾患②	第9週目 切断	第24週目 虚血性心疾患①	第10週目 脊髄損傷①	第25週目 虚血性心疾患②	第11週目 脊髄損傷②	第26週目 高齢者に多くみられる疾患①	第12週目 脊髄損傷③	第27週目 高齢者に多くみられる疾患②	第13週目 脊髄損傷④	第28週目 小児疾患	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 試験解説	第30週目 試験解説
第1週目 リハビリテーション医学・医療①	第16週目 関節リウマチ																																							
第2週目 リハビリテーション医学・医療②	第17週目 脳血管障害①																																							
第3週目 診断・評価学①	第18週目 脳血管障害②																																							
第4週目 診断・評価学②	第19週目 脳血管障害③																																							
第5週目 運動療法と物理療法①	第20週目 脳血管障害④																																							
第6週目 運動療法と物理療法②	第21週目 パーキンソン病																																							
第7週目 作業療法と言語聴覚療法	第22週目 呼吸器疾患①																																							
第8週目 補装具、自助具、福祉用具	第23週目 呼吸器疾患②																																							
第9週目 切断	第24週目 虚血性心疾患①																																							
第10週目 脊髄損傷①	第25週目 虚血性心疾患②																																							
第11週目 脊髄損傷②	第26週目 高齢者に多くみられる疾患①																																							
第12週目 脊髄損傷③	第27週目 高齢者に多くみられる疾患②																																							
第13週目 脊髄損傷④	第28週目 小児疾患																																							
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																							
第15週目 試験解説	第30週目 試験解説																																							
教科書・参考書等	東洋療法学校協会編「新版 リハビリテーション医学」																																							
成績評価の方法	①前期期末試験50%(100点) ②後期期末試験50%(100点) 上記項目の総合評価が60%(60/100点)とする。																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。																																							

授業科目名	はりきゆう理論Ⅱ			授業形態	講義	教員	今野 弘務		No.	22
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	2年生	
授業概要	鍼灸治効機序を学習する。									
授業の到達目標	1. 治効機序を理解する。 2. 鍼灸刺激に対してどのような反応が起こるか、エビデンスに基づく内容を把握する。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 鍼鎮痛①(概要) 第2週目 鍼鎮痛②(全身性鎮痛) 第3週目 鍼鎮痛③(全身性鎮痛) 第4週目 鍼鎮痛④(脊髄分節性鎮痛) 第5週目 循環系と鍼 第6週目 循環系と鍼灸② 第7週目 運動系と鍼 第8週目 消化器系と鍼 第9週目 泌尿器系と鍼 第10週目 生体防御系と鍼灸 第11週目 刺激部位 第12週目 治効機序(局所治療) 第13週目 治効機序(遠隔治療) 第14週目 期末試験 第15週目 期末試験解説 (授業の方法および自学学習について) 授業は板書もしくは配布資料にて行う。 欠席した場合は、次回の授業までに配布資料を職員室まで取りに来ること。									
教科書・参考書等	『はりきゆう理論 第3版』を使用する。									
成績評価の方法	①期末試験80%(80満点) ②小テスト20%(20満点)※4回行い、1回の基準点未滿を-5%(-5点)とする。但し、基準点未滿の者は、課題提出により減点は行なわないものとする。 上記評価の総合成績が60%(60/100点)以上とする。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院を開業									

授業科目名	東洋医学概論Ⅱ			授業形態	講義	教員	今野 弘務		No.	23
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	2年生	
授業概要	1年生で学習した東洋医学の基礎をもとに、弁証論治を学習する。									
授業の到達目標	1. 弁証論治を理解する。									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 八綱弁証 / 気血津液弁証</p> <p>第2週目 臟腑弁証(肝)</p> <p>第3週目 臟腑弁証(心)</p> <p>第4週目 臟腑弁証(脾)</p> <p>第5週目 臟腑弁証(肺)</p> <p>第6週目 臟腑弁証(腎)</p> <p>第7週目 臟腑弁証(複合①)</p> <p>第8週目 臟腑弁証(複合②)</p> <p>第9週目 臟腑弁証(複合③)</p> <p>第10週目 経絡弁証、六淫弁証</p> <p>第11週目 六経弁証 / 衛気営血弁証 / 三焦弁証</p> <p>第12週目 論治①</p> <p>第13週目 論治②</p> <p>第14週目 期末試験</p> <p>第15週目 期末試験の解説</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>主に板書にて授業を進める。 各授業ごとに自身でノートを作成して復習すること。 また、欠席したものは、次の授業までにノートを作成しておくこと。</p>									
教科書・参考書等	『新版 東洋医学概論』を使用する。									
成績評価の方法	<p>①期末試験80%(80満点)</p> <p>②小テスト20%(20満点)</p> <p>※、小テストは10回行い、1回の基準点未滿を-2%(-2点)とする。但し、基準点未滿の者は、課題提出により減点は行なわないものとする。</p> <p>上記評価の総合成績が60/100点(60%)以上を取得した場合に単位を認定する</p>									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院、接骨院の勤務歴あり。									

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	経絡経穴概論Ⅱ(穴性学)			授業形態	講義	教員	南洞 大有		No.	24
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	2年生	
授業概要	1. 主に五俞穴・五要穴を中心に経穴の特性を学ぶ。 2. 各疾患の特効穴や弁証取穴など総合的に学ぶ。									
授業の到達目標	1. 十四経(十二正経及び督脈任脈)における主な経穴の穴性を学ぶ。 2. 東洋医学的治療経穴が自分で選択できるようになることを目標とする。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 五俞穴の穴性(難経六十八難) 第2週目 五俞穴の穴性(難経六十九難) 第3週目 五要穴の穴性 第4週目 配穴法(原絡、俞原、俞募、募合、郄募) 第5週目 四総穴、八会穴、奇経八脈の穴性 第6週目 気血津液弁証の虚証への治法と穴性 第7週目 気血津液弁証の実証への治法と穴性 第8週目 外感表証への治法と穴性 第9週目 臓腑の虚証への治法と穴性 第10週目 臓腑弁証の臓の実証への治法と穴性 第11週目 臓腑弁証の腑の実証への治法と穴性 第12週目 虚実挟雑証への治法と穴性 第13週目 複合弁証への治法と穴性 第14週目 期末試験 第15週目 期末試験の解説 (授業の方法および自学学習について) ・授業内で参照資料は配布する。									
教科書・参考書等	教科書:東洋療法学校協会「新版 経絡経穴概論」「新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)」									
成績評価の方法	期末試験100%(100点満点) 上記項目が60%(60/100点)以上とする。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。									

授業科目名	東洋医学臨床論 I			授業形態	講義	教員	今野 弘務		No.	25
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生	
授業概要	前期：東洋医学的診察方法(四診)を学習する。後期： 現代医学的な疾病あるいは症状に対して、東洋医学的な病態把握と治療を学習する。									
授業の到達目標	1. 前期は、1学年で学習した東洋医学の基礎をもとに、望診・聞診・問診・切診(四診)を理解し、四診を実践できるように努める。 2. 後期は、『新版 東洋医学概論』の基礎理論をもとに、『新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)』の疾病、病症(症状)の病理観を理解する。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 望診(望神) 第16週目 頭痛 第2週目 望診(舌診) 第17週目 顔面痛 第3週目 聞診 第18週目 胸痛 第4週目 問診(寒熱) 第19週目 腹痛 第5週目 問診(飲食、睡眠) 第20週目 眼精疲労 第6週目 問診(二便(大便)) 第21週目 めまい 第7週目 問診(二便(小便)) 第22週目 睡眠障害 第8週目 問診(身体各部位の症状) 第23週目 悪心・嘔吐 第9週目 問診(汗) 第24週目 便秘 第10週目 問診(疼痛) 第25週目 下痢 第11週目 問診(女性) 第26週目 歯痛 第12週目 切診(腹診、背診) 第27週目 咳嗽・喀痰 第13週目 切診(脈診) 第28週目 鼻閉・鼻汁 第14週目 前期期末試験 第29週目 後期期末試験 第15週目 前期期末試験解説 第30週目 前期期末試験解説 (授業の方法および自学学習について) 主に板書にて授業を進める。 各授業ごとに自身でノートを作成して復習すること。 また、欠席したものは、次の授業までにノートを作成しておくこと。									
教科書・参考書等	『新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)』『新版 東洋医学概論』を使用する。									
成績評価の方法	①前期期末試験40%(80点満点) ②前期小テスト10%(20点満点) ③後期期末試験40%(80点満点) ④後期小テスト10%(20点満点) ※、前期・後期の小テストは、各10回行い、1回の基準点未満を-1%(-2点)とする。但し、基準点未満の者は、課題提出により減点を行なわないものとする。 上記評価の総合成績が60%(120/200点)以上とする。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院を開業									

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	東洋医学臨床論Ⅱ		授業形態	講義	教員	鈴木 亮太		No.	26
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生
授業概要	1. 現代医学の考えに基づいた各疾患の病態について理解を深める。 2. 各疾患の鍼灸治療における適応・不適応を学び、判別できる能力を養う。 3. 現代医学的な鍼灸治療の治療法を学び、臨床で活用できる能力を養う。								
授業の到達目標	1. 主要な疾患について、現代医学の視点から病態を説明することができる。 2. 各疾患に対する鍼灸治療の適応および不適応を判別することができる。 3. 各疾患の現代医学的根拠に基づいた鍼灸治療法を導き出し、説明することができる。								
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 現代医学の考え方 治療原則・治療計画 第2週目 頭痛(現代医学) 第3週目 顔面痛・顔面麻痺(現代医学) 第4週目 歯痛・眼精疲労(現代医学) 第5週目 鼻閉・鼻汁(現代医学) 第6週目 めまい(現代医学) 第7週目 耳鳴り・難聴(現代医学) 第8週目 発熱(現代医学) 第9週目 のぼせと冷え(現代医学) 第10週目 小児・老年特有の症状(現代医学) 第11週目 排尿障害・ED(現代医学) 第12週目 痒痒感(痒み)・肌荒れ・発疹(現代医学) 第13週目 血圧異常(現代医学) 第14週目 前期期末試験 第15週目 睡眠障害(現代医学) 第16週目 月経異常・性器出血・帯下(現代医学) 第17週目 不妊症・骨盤位・つわり(現代医学) 第18週目 乳汁分泌不全・脱毛(現代医学) 第19週目 疲労と倦怠・気分障害(現代医学) 第20週目 咳嗽・喀痰(現代医学) 第21週目 胸痛・呼吸困難・動悸・息切れ(現代医学) 第22週目 腹痛(現代医学) 第23週目 便秘と下痢(現代医学) 第24週目 悪心・嘔吐(現代医学) 第25週目 肥満・口渇(現代医学) 第26週目 食欲不振・やせ(るい瘦)(現代医学) 第27週目 浮腫・出血傾向(現代医学) 第28週目 歩行異常(現代医学) 第29週目 後期期末試験 第30週目 総復習 (授業の方法および自学学習について) 1) 学習方法: 主にプリントを配布し、教室で授業を行う。 2) 欠席により授業の配布資料を受け取れなかった場合、次の授業開始前までに、担当教員に資料を受け取りに行くこと。								
教科書・参考書等	教科書: 新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編) 参考図書: 文光堂「鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ」								
成績評価の方法	前期成績評価: 前期期末試験50%(100点満点) 後期成績評価: 後期期末試験50%(100点満点) 前期後期末試験総合成績 120/200点(60%)以上とする。								
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。								

授業科目名	臨床はりきゅう学Ⅱ(筋と経穴)		授業形態	講義	教員	大渡 光弘		No.	27																														
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																														
授業概要	筋肉の触診法を学び、それに該当する経穴を取穴する。																																						
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・筋肉の起始停止、作用、神経を答えることができる。 ・各筋肉を触診できる。 ・各筋肉に該当する経穴を取穴できる。 																																						
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 大腿部の筋肉と経穴①</td> <td>第16週目 上腕の筋肉と経穴</td> </tr> <tr> <td>第2週目 大腿部の筋肉と経穴②</td> <td>第17週目 前腕の筋肉と経穴①</td> </tr> <tr> <td>第3週目 大腿部の筋肉と経穴③</td> <td>第18週目 前腕の筋肉と経穴②</td> </tr> <tr> <td>第4週目 大腿部の筋肉と経穴④</td> <td>第19週目 前腕の筋肉と経穴③</td> </tr> <tr> <td>第5週目 下腿部の筋肉と経穴①</td> <td>第20週目 手部の筋肉と経穴</td> </tr> <tr> <td>第6週目 下腿部の筋肉と経穴②</td> <td>第21週目 頸部の経穴①</td> </tr> <tr> <td>第7週目 下腿部の筋肉と経穴③</td> <td>第22週目 頸部の経穴②</td> </tr> <tr> <td>第8週目 下腿部の筋肉と経穴④</td> <td>第23週目 肩部の筋肉と経穴①</td> </tr> <tr> <td>第9週目 足部の筋肉と経穴①</td> <td>第24週目 肩部の筋肉と経穴②</td> </tr> <tr> <td>第10週目 足部の筋肉と経穴②</td> <td>第25週目 背部の筋肉と経穴①</td> </tr> <tr> <td>第11週目 下肢のまとめ①</td> <td>第26週目 背部の筋肉と経穴②</td> </tr> <tr> <td>第12週目 下肢のまとめ②</td> <td>第27週目 上肢のまとめ①</td> </tr> <tr> <td>第13週目 下肢のまとめ③</td> <td>第28週目 上肢のまとめ②</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 前期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 試験解説</td> <td>第30週目 試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>1)プリントを配布し、授業を行う。 2)部位により、露出しやように衣服を考慮すること。</p>									第1週目 大腿部の筋肉と経穴①	第16週目 上腕の筋肉と経穴	第2週目 大腿部の筋肉と経穴②	第17週目 前腕の筋肉と経穴①	第3週目 大腿部の筋肉と経穴③	第18週目 前腕の筋肉と経穴②	第4週目 大腿部の筋肉と経穴④	第19週目 前腕の筋肉と経穴③	第5週目 下腿部の筋肉と経穴①	第20週目 手部の筋肉と経穴	第6週目 下腿部の筋肉と経穴②	第21週目 頸部の経穴①	第7週目 下腿部の筋肉と経穴③	第22週目 頸部の経穴②	第8週目 下腿部の筋肉と経穴④	第23週目 肩部の筋肉と経穴①	第9週目 足部の筋肉と経穴①	第24週目 肩部の筋肉と経穴②	第10週目 足部の筋肉と経穴②	第25週目 背部の筋肉と経穴①	第11週目 下肢のまとめ①	第26週目 背部の筋肉と経穴②	第12週目 下肢のまとめ②	第27週目 上肢のまとめ①	第13週目 下肢のまとめ③	第28週目 上肢のまとめ②	第14週目 前期期末試験	第29週目 前期期末試験	第15週目 試験解説	第30週目 試験解説
第1週目 大腿部の筋肉と経穴①	第16週目 上腕の筋肉と経穴																																						
第2週目 大腿部の筋肉と経穴②	第17週目 前腕の筋肉と経穴①																																						
第3週目 大腿部の筋肉と経穴③	第18週目 前腕の筋肉と経穴②																																						
第4週目 大腿部の筋肉と経穴④	第19週目 前腕の筋肉と経穴③																																						
第5週目 下腿部の筋肉と経穴①	第20週目 手部の筋肉と経穴																																						
第6週目 下腿部の筋肉と経穴②	第21週目 頸部の経穴①																																						
第7週目 下腿部の筋肉と経穴③	第22週目 頸部の経穴②																																						
第8週目 下腿部の筋肉と経穴④	第23週目 肩部の筋肉と経穴①																																						
第9週目 足部の筋肉と経穴①	第24週目 肩部の筋肉と経穴②																																						
第10週目 足部の筋肉と経穴②	第25週目 背部の筋肉と経穴①																																						
第11週目 下肢のまとめ①	第26週目 背部の筋肉と経穴②																																						
第12週目 下肢のまとめ②	第27週目 上肢のまとめ①																																						
第13週目 下肢のまとめ③	第28週目 上肢のまとめ②																																						
第14週目 前期期末試験	第29週目 前期期末試験																																						
第15週目 試験解説	第30週目 試験解説																																						
教科書・参考書等	解剖学・経絡経穴概論 医歯薬出版株式会社 および 配布プリント																																						
成績評価の方法	<p>前期成績評価</p> <p>①前期期末試験40%(80点満点) ②部位別筋の到達度テスト(60%以上)10%(20点)・・・各5%(5点)</p> <p>後期評価</p> <p>①後期期末試験40%(80点満点) ②部位別筋の到達度テスト(60%以上)10%(20点)・・・各5%(5点)</p> <p>前期後期末試験総合成績 120/200点(60%)以上とする。 ※各毎の到達度テスト60%未満の場合は、再到達度テスト60%以上で5%(5点)とする。</p>																																						
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院、接骨院、整形外科に勤務																																						

授業科目名	臨床はりきゅう学Ⅲ(生体観察学含む)			授業形態	講義	教員	神谷 美香		No.	28
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	2年生	
授業概要	<p>体表観察上の個人差を発見できるようになる。 皮膚の下にある各器官を体表から触知し、その構造をイメージできるようになる。 筋・神経・血管などの位置が皮膚上から把握できるようになる。 正常な人体の構造を学ぶことで異常な状態を知る上での基盤を構築する。</p>									
授業の到達目標	<p>体表から見た身体の仕組みを学習し、その特徴を理解することができるようになる。</p>									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 ガイダンス,触擦の基礎 第2週目 肩甲骨,鎖骨,上腕骨,橈骨,尺骨 第3週目 手根骨,指骨,上肢に関わる靭帯 第4週目 肩甲上腕,胸郭,肘,手,指関節に関わる筋 第5週目 肩甲上腕,胸郭,肘,手,指関節に関わる筋 第6週目 骨盤,大腿骨,膝関節周辺,足関節 第7週目 スカルパ三角,膝靭帯,足靭帯 第8週目 股関節に関わる筋 第9週目 股関節に関わる筋 第10週目 関節,足関節に関わる筋 第11週目 胸郭 第12週目 脊柱 第13週目 脊柱 第14週目 後期期末試験 第15週目 試験解説</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>1)プリント, 模型を使用し授業を行うことを基本とする。 2)その日の内容は各自復習する。 3)欠席した場合は次回の授業までに配布物を取りに来ること。 4)遅刻は3回で1回の欠席とする。*感染症などの特別な場合を除く。 5)実技授業なので, 手足や背部, 腹部などをだすことを出しやすいのが好ましい。</p>									
教科書・参考書等	配布プリント									
成績評価の方法	<p>1)前期期末試験50%(100点満点) 2)後期期末試験50%(100点満点) 上記評価の総合成績が120/200点(60%)以上とする。</p>									
実践的教育に関する経歴等	<p>①鍼師・灸師・あん摩マッサージ指圧師 ②鍼灸マッサージ教員免許 ③鍼灸マッサージ院勤務</p>									

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	臨床はりきゅう学Ⅳ(あはきの適応を含む)	授業形態	講義	教員	南洞 大宥	No.	29		
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	2年生
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・各疾患の診察法を学ぶ。 ・診察法のなかで、適応・不適応をしっかり鑑別できるよう学ぶ。 								
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各疾患別の医療面接での聴取のポイントと徒手検査法ができるようになる。 ・不適応を除外する問診法、徒手検査法を行うことができる。 								
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1週目 不適応徴候① 第2週目 不適応徴候② 第3週目 上肢痛の診察・検査① 第4週目 上肢痛の診察・検査② 第5週目 上肢痛の診察・検査③ 第6週目 上肢痛の診察・検査④ 第7週目 腰下肢痛の診察・検査① 第8週目 腰下肢痛の診察・検査② 第9週目 腰下肢痛の診察・検査③ 第10週目 腰下肢痛の診察・検査④ 第11週目 膝の診察・検査① 第12週目 膝の診察・検査② 第13週目 膝の診察・検査③ 第14週目 診察の評価 第15週目 期末試験 <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各疾患の病態や特徴的な症状の説明(教室) ・検査法の実技(実技) 								
教科書・参考書等	<p><参考書></p> <p>必要に応じてプリントを配布する。</p>								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ①期末試験70%(70点満点) ②出欠席30%(30点)※欠席1回-6%(-6点)、遅刻・早退1回-2%(-2点) <p>上記項目が60%(60/100点)以上とする。</p>								
実践的教育に関する経歴等	<p>鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。</p>								

x

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	応用はりきゆう実技 I			授業形態	講義	教員	神谷 美香		No.	30																														
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																															
授業概要	鍼治療には大きく分けて経絡治療、中医学的治療、現代医学的治療があるが、この授業では神経や筋、骨をターゲットとし、西洋医学的診断をもとに鍼治療を行う現代医学的治療を学ぶ。																																							
授業の到達目標	各種検査法、疾患の診断、鑑別、除外診断の基礎と刺鍼の基礎を臨床で活かす方法を習得する。疾患に対する治療法を修得する。低周波通電の使い方を修得する。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>1週目 ガイダンス, タオル, 危険部位刺鍼</td> <td>16週目 徒手検査, 背部治療① パルス</td> </tr> <tr> <td>2週目 徒手検査, 肩治療① パルス</td> <td>17週目 徒手検査, 背部治療② 木下式</td> </tr> <tr> <td>3週目 徒手検査, 肩治療② パルス</td> <td>18週目 徒手検査, 上肢治療① パルス</td> </tr> <tr> <td>4週目 徒手検査, 肩治療③ 木下式</td> <td>19週目 徒手検査, 上肢治療② 木下式</td> </tr> <tr> <td>5週目 徒手検査, 頸治療① パルス</td> <td>20週目 三叉神経痛</td> </tr> <tr> <td>6週目 徒手検査, 頸治療② 木下式</td> <td>21週目 頸椎症, 胸郭出口症候群</td> </tr> <tr> <td>7週目 徒手検査, 腰治療① パルス</td> <td>22週目 脊柱管狭窄症, ヘルニア</td> </tr> <tr> <td>8週目 徒手検査, 腰下肢治療② パルス</td> <td>23週目 坐骨神経痛</td> </tr> <tr> <td>9週目 徒手検査, 腰治療③ 木下式</td> <td>24週目 特殊鍼法 円皮鍼</td> </tr> <tr> <td>10週目 徒手検査, 腰下肢治療④ 木下式</td> <td>25週目 特殊鍼法 運動鍼</td> </tr> <tr> <td>11週目 徒手検査, 膝治療① パルス</td> <td>26週目 特殊鍼法 頭皮鍼</td> </tr> <tr> <td>12週目 徒手検査, 膝治療② パルス</td> <td>27週目 特殊鍼法</td> </tr> <tr> <td>13週目 徒手検査, 試験概要</td> <td>28週目 試験概要</td> </tr> <tr> <td>14週目 前期期末試験</td> <td>29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>15週目 試験解説, 膝治療③ 木下式</td> <td>30週目 試験解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)プリントを使用し実技室にて授業を行うことを基本とする。 2)その日の内容は各自復習する。 3)欠席した場合は次回の授業までにボックス内にある配布物を確認。 4)遅刻は3回で1回の欠席とする。*感染症などの特別な場合を除く。 5)実技なので白衣着用。手足や背部, 腹部などを出しやすいのが好ましい。 										1週目 ガイダンス, タオル, 危険部位刺鍼	16週目 徒手検査, 背部治療① パルス	2週目 徒手検査, 肩治療① パルス	17週目 徒手検査, 背部治療② 木下式	3週目 徒手検査, 肩治療② パルス	18週目 徒手検査, 上肢治療① パルス	4週目 徒手検査, 肩治療③ 木下式	19週目 徒手検査, 上肢治療② 木下式	5週目 徒手検査, 頸治療① パルス	20週目 三叉神経痛	6週目 徒手検査, 頸治療② 木下式	21週目 頸椎症, 胸郭出口症候群	7週目 徒手検査, 腰治療① パルス	22週目 脊柱管狭窄症, ヘルニア	8週目 徒手検査, 腰下肢治療② パルス	23週目 坐骨神経痛	9週目 徒手検査, 腰治療③ 木下式	24週目 特殊鍼法 円皮鍼	10週目 徒手検査, 腰下肢治療④ 木下式	25週目 特殊鍼法 運動鍼	11週目 徒手検査, 膝治療① パルス	26週目 特殊鍼法 頭皮鍼	12週目 徒手検査, 膝治療② パルス	27週目 特殊鍼法	13週目 徒手検査, 試験概要	28週目 試験概要	14週目 前期期末試験	29週目 後期期末試験	15週目 試験解説, 膝治療③ 木下式	30週目 試験解説
1週目 ガイダンス, タオル, 危険部位刺鍼	16週目 徒手検査, 背部治療① パルス																																							
2週目 徒手検査, 肩治療① パルス	17週目 徒手検査, 背部治療② 木下式																																							
3週目 徒手検査, 肩治療② パルス	18週目 徒手検査, 上肢治療① パルス																																							
4週目 徒手検査, 肩治療③ 木下式	19週目 徒手検査, 上肢治療② 木下式																																							
5週目 徒手検査, 頸治療① パルス	20週目 三叉神経痛																																							
6週目 徒手検査, 頸治療② 木下式	21週目 頸椎症, 胸郭出口症候群																																							
7週目 徒手検査, 腰治療① パルス	22週目 脊柱管狭窄症, ヘルニア																																							
8週目 徒手検査, 腰下肢治療② パルス	23週目 坐骨神経痛																																							
9週目 徒手検査, 腰治療③ 木下式	24週目 特殊鍼法 円皮鍼																																							
10週目 徒手検査, 腰下肢治療④ 木下式	25週目 特殊鍼法 運動鍼																																							
11週目 徒手検査, 膝治療① パルス	26週目 特殊鍼法 頭皮鍼																																							
12週目 徒手検査, 膝治療② パルス	27週目 特殊鍼法																																							
13週目 徒手検査, 試験概要	28週目 試験概要																																							
14週目 前期期末試験	29週目 後期期末試験																																							
15週目 試験解説, 膝治療③ 木下式	30週目 試験解説																																							
教科書・参考書等	「臨床医学総論」「臨床医学各論」「リハビリテーション医学」 医歯薬出版株式会社 および 配布プリント																																							
成績評価の方法	1)前期期末試験50%(100点満点) 2)後期期末試験50%(100点満点) 上記評価の総合成績が120/200点(60%)以上とする。																																							
実践的教育に関する経歴等	①鍼師・灸師・あん摩マッサージ指圧師 ②鍼灸マッサージ教員免許 ③鍼灸マッサージ院勤務																																							

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	応用はりきゅう実技Ⅱ			授業形態	講義	教員	南洞 大宥		No.	31																														
科目区分	専門分野	単位	2	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																															
授業概要	鍼灸治療には大きく東洋医学的治療と現代医学的治療に分けられる。この授業では東洋医学的鍼灸治療の四診法から論治までの基礎を学ぶ。																																							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋医学の四診から論治までの基礎を習得する。 2. 要穴表に記載される経穴の使用法を習得する。 3. 各種の配穴法を習得する。 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 四診合参の基礎</td> <td>第16週目 愈原配穴法①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 八綱弁証の四診合参①</td> <td>第17週目 愈原配穴法②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 八綱弁証の四診合参②</td> <td>第18週目 原絡配穴法①</td> </tr> <tr> <td>第4週目 鍼灸の補瀉法</td> <td>第19週目 原絡配穴法②</td> </tr> <tr> <td>第5週目 八綱弁証の論治①</td> <td>第20週目 郄募配穴法①</td> </tr> <tr> <td>第6週目 八綱弁証の論治②</td> <td>第21週目 郄募配穴法②</td> </tr> <tr> <td>第7週目 気血津液弁証の四診合参①</td> <td>第22週目 募合配穴法①</td> </tr> <tr> <td>第8週目 気血津液弁証の四診合参②</td> <td>第23週目 募合配穴法②</td> </tr> <tr> <td>第9週目 気血津液弁証の四診合参③</td> <td>第24週目 難経六十九難の配穴法①</td> </tr> <tr> <td>第10週目 気血津液弁証の四診合参④</td> <td>第25週目 難経六十九難の配穴法②</td> </tr> <tr> <td>第11週目 気血津液弁証の論治①</td> <td>第26週目 難経六十九難の配穴法③</td> </tr> <tr> <td>第12週目 気血津液弁証の論治②</td> <td>第27週目 難経六十九難の配穴法④</td> </tr> <tr> <td>第13週目 気血津液弁証の論治③</td> <td>第28週目 八脈交会穴①</td> </tr> <tr> <td>第14週目 気血津液弁証の論治④</td> <td>第29週目 八脈交会穴②</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期期末試験</td> <td>第30週目 後期期末試験</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>(1)本講義は実技のため、開始時間までに実習室2に白衣着用で集合する事。 (2)生徒同士で鍼灸を行うので、患者役に白衣内はタンクトップと短パンを着用の事。</p>										第1週目 四診合参の基礎	第16週目 愈原配穴法①	第2週目 八綱弁証の四診合参①	第17週目 愈原配穴法②	第3週目 八綱弁証の四診合参②	第18週目 原絡配穴法①	第4週目 鍼灸の補瀉法	第19週目 原絡配穴法②	第5週目 八綱弁証の論治①	第20週目 郄募配穴法①	第6週目 八綱弁証の論治②	第21週目 郄募配穴法②	第7週目 気血津液弁証の四診合参①	第22週目 募合配穴法①	第8週目 気血津液弁証の四診合参②	第23週目 募合配穴法②	第9週目 気血津液弁証の四診合参③	第24週目 難経六十九難の配穴法①	第10週目 気血津液弁証の四診合参④	第25週目 難経六十九難の配穴法②	第11週目 気血津液弁証の論治①	第26週目 難経六十九難の配穴法③	第12週目 気血津液弁証の論治②	第27週目 難経六十九難の配穴法④	第13週目 気血津液弁証の論治③	第28週目 八脈交会穴①	第14週目 気血津液弁証の論治④	第29週目 八脈交会穴②	第15週目 前期期末試験	第30週目 後期期末試験
第1週目 四診合参の基礎	第16週目 愈原配穴法①																																							
第2週目 八綱弁証の四診合参①	第17週目 愈原配穴法②																																							
第3週目 八綱弁証の四診合参②	第18週目 原絡配穴法①																																							
第4週目 鍼灸の補瀉法	第19週目 原絡配穴法②																																							
第5週目 八綱弁証の論治①	第20週目 郄募配穴法①																																							
第6週目 八綱弁証の論治②	第21週目 郄募配穴法②																																							
第7週目 気血津液弁証の四診合参①	第22週目 募合配穴法①																																							
第8週目 気血津液弁証の四診合参②	第23週目 募合配穴法②																																							
第9週目 気血津液弁証の四診合参③	第24週目 難経六十九難の配穴法①																																							
第10週目 気血津液弁証の四診合参④	第25週目 難経六十九難の配穴法②																																							
第11週目 気血津液弁証の論治①	第26週目 難経六十九難の配穴法③																																							
第12週目 気血津液弁証の論治②	第27週目 難経六十九難の配穴法④																																							
第13週目 気血津液弁証の論治③	第28週目 八脈交会穴①																																							
第14週目 気血津液弁証の論治④	第29週目 八脈交会穴②																																							
第15週目 前期期末試験	第30週目 後期期末試験																																							
教科書・参考書等	教科書: 東洋療法学校協会「新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)」 「新版 東洋医学概論」 「新版 経絡経穴概論」																																							
成績評価の方法	①前期期末試験35%(70点満点) ②前期出欠席状況15%(30点満点) ※欠席1回3%(-6点)、遅刻・早退1回1%(-2点) ③後期期末試験35%(70点満点) ④後期出欠席状況15%(30点満点) ※欠席1回3%(-6点)、遅刻・早退1回1%(-2点) 上記項目から総合的評価して60%(60/120点)以上とする。																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。																																							

授業科目名	臨床はりきゅう実技Ⅰ (臨床実習前施術実技試験を含む)			授業形態	実習	教員	南洞 大宥		No.	32
科目区分	専門分野	単位	1	時間	30	期間	半期(15回)	対象学年	2年生	
授業概要	鍼灸臨床で特に使用される要穴について、正確に素早く取穴する。 取穴した経穴に対して、正確な刺鍼と施灸を行う。 検査法の正確な方法とその意義を学ぶ。									
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・指示された、経穴を正確に時間内に取穴できる。 ・取穴した経穴に対し、正確な刺鍼と施灸を時間内に行うことができる。 ・症状に対して必要な検査法が行える。 ・検査法の陽性所見と、その意義を答えることができる。 									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 不適応徴候の検査法、取穴方法の解説</p> <p>第2週目 頸肩部の検査法、背部の取穴</p> <p>第3週目 上肢の検査法、上肢の取穴</p> <p>第4週目 腰仙部の検査法、腰仙部の取穴</p> <p>第5週目 下肢の徒手検査法 下肢の取穴</p> <p>第6週目 上肢の取穴部位への鍼灸施術</p> <p>第7週目 下肢の取穴部位への鍼灸施術</p> <p>第8週目 腰仙部の取穴部位への鍼灸施術</p> <p>第9週目 背部の取穴部位への鍼灸施術</p> <p>第10週目 臨床実習前施術実技試験練習①</p> <p>第11週目 臨床実習前施術実技試験練習②</p> <p>第12週目 臨床実習前施術実技試験練習③</p> <p>第13週目 臨床実習前施術実技試験練習④</p> <p>第14週目 臨床実習前施術実技試験練習⑤</p> <p>第15週目 臨床実習前施術実技試験</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>プリントを用意。実技室で行う。 基本的に白衣を着用する。 白衣の着用で大腿部の露出が難しい者は半ズボンを用意すること。</p>									
教科書・参考書等	教科書: 新版経絡経穴概論									
成績評価の方法	臨床実習前施術試験を行い評価する。 臨床実習前施術試験の項目は、 1) 徒手検査法50%(50点) 2) 取穴と鍼灸実技50%(50点) 上記項目の60%(60/100点)以上とする。									
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。									

授業科目名	臨床実習 I			授業形態	講義	教員	樋口 勝広		No.	33																														
科目区分	専門分野	単位	1	時間	45	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																															
授業概要	臨床における医療面接や身体診察などの基本的な知識を身に付け、患者さんの対応ができるようになる。																																							
授業の到達目標	臨床における一般入試的な医療面接、診察、検査などの基礎知識を身に付け、実際に患者さんの対応を行い、臨床の一連の流れに触れ、臨床力を身に付ける。																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 医療面接の基礎</td> <td>第16週目 東洋医学的診察を用いての診察 ①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 医療面接の基礎</td> <td>第17週目 東洋医学的診察を用いての診察 ②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 患者導入と予診表記載</td> <td>第18週目 東洋医学的診察を用いての診察 ③</td> </tr> <tr> <td>第4週目 主訴の把握・症状</td> <td>第19週目 東洋医学的診察を用いての診察 ④</td> </tr> <tr> <td>第5週目 展開・問題の把握</td> <td>第20週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑤</td> </tr> <tr> <td>第6週目 問題の掘り下げ・患者説明モデル</td> <td>第21週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑥</td> </tr> <tr> <td>第7週目 系統的レビューと患者精神状態の把握</td> <td>第22週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑦</td> </tr> <tr> <td>第8週目 既往歴・家族歴・社会歴の聴取</td> <td>第23週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑧</td> </tr> <tr> <td>第9週目 最終要約と確認</td> <td>第24週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第10週目 インフォームドコンセントについて</td> <td>第25週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第11週目 鍼灸治療に関する説明と動悸付け</td> <td>第26週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第12週目 治療計画の調整と誘導について</td> <td>第27週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ</td> </tr> <tr> <td>第13週目 臨床実習医療面接総合評価試験</td> <td>第28週目 検査法を用いての診察・判定</td> </tr> <tr> <td>第14週目 臨床実習医療面接総合評価試験</td> <td>第29週目 検査法を用いての診察・判定</td> </tr> <tr> <td>第15週目 医療面接総合診察</td> <td>第30週目 医療面接総合診察</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習室で授業を行う。 ・毎回小グループ(3~4人)を形成し、相互協力のもと臨床実習を行う。 										第1週目 医療面接の基礎	第16週目 東洋医学的診察を用いての診察 ①	第2週目 医療面接の基礎	第17週目 東洋医学的診察を用いての診察 ②	第3週目 患者導入と予診表記載	第18週目 東洋医学的診察を用いての診察 ③	第4週目 主訴の把握・症状	第19週目 東洋医学的診察を用いての診察 ④	第5週目 展開・問題の把握	第20週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑤	第6週目 問題の掘り下げ・患者説明モデル	第21週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑥	第7週目 系統的レビューと患者精神状態の把握	第22週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑦	第8週目 既往歴・家族歴・社会歴の聴取	第23週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑧	第9週目 最終要約と確認	第24週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ	第10週目 インフォームドコンセントについて	第25週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ	第11週目 鍼灸治療に関する説明と動悸付け	第26週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ	第12週目 治療計画の調整と誘導について	第27週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ	第13週目 臨床実習医療面接総合評価試験	第28週目 検査法を用いての診察・判定	第14週目 臨床実習医療面接総合評価試験	第29週目 検査法を用いての診察・判定	第15週目 医療面接総合診察	第30週目 医療面接総合診察
第1週目 医療面接の基礎	第16週目 東洋医学的診察を用いての診察 ①																																							
第2週目 医療面接の基礎	第17週目 東洋医学的診察を用いての診察 ②																																							
第3週目 患者導入と予診表記載	第18週目 東洋医学的診察を用いての診察 ③																																							
第4週目 主訴の把握・症状	第19週目 東洋医学的診察を用いての診察 ④																																							
第5週目 展開・問題の把握	第20週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑤																																							
第6週目 問題の掘り下げ・患者説明モデル	第21週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑥																																							
第7週目 系統的レビューと患者精神状態の把握	第22週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑦																																							
第8週目 既往歴・家族歴・社会歴の聴取	第23週目 東洋医学的診察を用いての診察 ⑧																																							
第9週目 最終要約と確認	第24週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ																																							
第10週目 インフォームドコンセントについて	第25週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ																																							
第11週目 鍼灸治療に関する説明と動悸付け	第26週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ																																							
第12週目 治療計画の調整と誘導について	第27週目 東洋医学的診察を用いての診察 まとめ																																							
第13週目 臨床実習医療面接総合評価試験	第28週目 検査法を用いての診察・判定																																							
第14週目 臨床実習医療面接総合評価試験	第29週目 検査法を用いての診察・判定																																							
第15週目 医療面接総合診察	第30週目 医療面接総合診察																																							
教科書・参考書等	配布プリント及び、配布テキスト																																							
成績評価の方法	<p>前期・後期それぞれ実習評価と授業評価により評価する。</p> <p>①実習評価:50%(50点満点) ②授業評価:50%(50点満点)</p> <p>※下記の項目に該当した場合、その都度、授業評価から減点する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席:10%(5点)、遅刻・早退:4%(2点) ・臨床実習記録簿 未提出:10%(5点)、未記載:4%(2点) ※該当する箇所1つにつき減点 ・カルテ(施術録) 未提出:10%(5点)、未記載:4%(2点) ※該当する箇所1つにつき減点 <p>※前期後期末試験総合成績 120/200点(60%)以上とする。</p>																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。																																							

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	臨床実習Ⅱ			授業形態	講義	教員	鈴木 亮太		No.	34																														
科目区分	専門分野	単位	1	時間	45	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																															
授業概要	1. 患者からの病歴聴取の方法および情報収集についての知識・技能を習得する。 2. 収集した患者情報の整理と口頭によるプレゼンテーションの基礎を習得する。 3. 診察録(カルテ)の基本的な記載方法の概要を習得する。 4. 現代医学的知見に基づくはり・きゅう施術の適否判断について臨床に活用できる基礎力を養う 5. 安全に配慮したはり・きゅう施術について臨床に活用できる基礎力を養う																																							
授業の到達目標	1. 患者から病歴を聴取し鍼灸治療の適否を説明することができる。 2. 患者の状況について口頭でプレゼンテーションすることができる。 3. 診察録(カルテ)を記載することができる。 4. 現代医学などに基づくはり・きゅう施術が安全に実践できる。																																							
授業内容・計画	(授業計画) <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%;">第1週目 膝周囲痛疾患の治療①</td> <td style="width:50%;">第16週目 膝周囲痛の症例～診察～治療①</td> </tr> <tr> <td>第2週目 膝周囲痛疾患の治療②</td> <td>第17週目 膝周囲痛の症例～診察～治療②</td> </tr> <tr> <td>第3週目 膝周囲痛疾患の治療③</td> <td>第18週目 膝周囲痛の症例～診察～治療③</td> </tr> <tr> <td>第4週目 膝周囲痛疾患の治療④</td> <td>第19週目 腰下肢痛の症例～診察～治療①</td> </tr> <tr> <td>第5週目 腰下肢痛疾患の治療①</td> <td>第20週目 腰下肢痛の症例～診察～治療②</td> </tr> <tr> <td>第6週目 腰下肢痛疾患の治療②</td> <td>第21週目 腰下肢痛の症例～診察～治療③</td> </tr> <tr> <td>第7週目 下肢痛疾患の治療③</td> <td>第22週目 腰下肢痛の症例～診察～治療④</td> </tr> <tr> <td>第8週目 腰下肢痛疾患の治療④</td> <td>第23週目 上肢痛の症例～診察～治療①</td> </tr> <tr> <td>第9週目 腰下肢痛疾患の治療⑤</td> <td>第24週目 上肢痛の症例～診察～治療②</td> </tr> <tr> <td>第10週目 上肢痛疾患の治療①</td> <td>第25週目 上肢痛の症例～診察～治療③</td> </tr> <tr> <td>第11週目 上肢痛疾患の治療②</td> <td>第26週目 症例に対する診察・治療①</td> </tr> <tr> <td>第12週目 上肢痛疾患の治療③</td> <td>第27週目 症例に対する診察・治療②</td> </tr> <tr> <td>第13週目 症例に対する治療</td> <td>第28週目 症例に対する診察・治療③</td> </tr> <tr> <td>第14週目 診察の評価</td> <td>第29週目 診察の評価</td> </tr> <tr> <td>第15週目 診察の評価</td> <td>第30週目 診察の評価</td> </tr> </table> (授業の方法および自学学習について) ・毎回小グループ(3～4人)を形成し、相互協力のもと臨床実習を行う。										第1週目 膝周囲痛疾患の治療①	第16週目 膝周囲痛の症例～診察～治療①	第2週目 膝周囲痛疾患の治療②	第17週目 膝周囲痛の症例～診察～治療②	第3週目 膝周囲痛疾患の治療③	第18週目 膝周囲痛の症例～診察～治療③	第4週目 膝周囲痛疾患の治療④	第19週目 腰下肢痛の症例～診察～治療①	第5週目 腰下肢痛疾患の治療①	第20週目 腰下肢痛の症例～診察～治療②	第6週目 腰下肢痛疾患の治療②	第21週目 腰下肢痛の症例～診察～治療③	第7週目 下肢痛疾患の治療③	第22週目 腰下肢痛の症例～診察～治療④	第8週目 腰下肢痛疾患の治療④	第23週目 上肢痛の症例～診察～治療①	第9週目 腰下肢痛疾患の治療⑤	第24週目 上肢痛の症例～診察～治療②	第10週目 上肢痛疾患の治療①	第25週目 上肢痛の症例～診察～治療③	第11週目 上肢痛疾患の治療②	第26週目 症例に対する診察・治療①	第12週目 上肢痛疾患の治療③	第27週目 症例に対する診察・治療②	第13週目 症例に対する治療	第28週目 症例に対する診察・治療③	第14週目 診察の評価	第29週目 診察の評価	第15週目 診察の評価	第30週目 診察の評価
第1週目 膝周囲痛疾患の治療①	第16週目 膝周囲痛の症例～診察～治療①																																							
第2週目 膝周囲痛疾患の治療②	第17週目 膝周囲痛の症例～診察～治療②																																							
第3週目 膝周囲痛疾患の治療③	第18週目 膝周囲痛の症例～診察～治療③																																							
第4週目 膝周囲痛疾患の治療④	第19週目 腰下肢痛の症例～診察～治療①																																							
第5週目 腰下肢痛疾患の治療①	第20週目 腰下肢痛の症例～診察～治療②																																							
第6週目 腰下肢痛疾患の治療②	第21週目 腰下肢痛の症例～診察～治療③																																							
第7週目 下肢痛疾患の治療③	第22週目 腰下肢痛の症例～診察～治療④																																							
第8週目 腰下肢痛疾患の治療④	第23週目 上肢痛の症例～診察～治療①																																							
第9週目 腰下肢痛疾患の治療⑤	第24週目 上肢痛の症例～診察～治療②																																							
第10週目 上肢痛疾患の治療①	第25週目 上肢痛の症例～診察～治療③																																							
第11週目 上肢痛疾患の治療②	第26週目 症例に対する診察・治療①																																							
第12週目 上肢痛疾患の治療③	第27週目 症例に対する診察・治療②																																							
第13週目 症例に対する治療	第28週目 症例に対する診察・治療③																																							
第14週目 診察の評価	第29週目 診察の評価																																							
第15週目 診察の評価	第30週目 診察の評価																																							
教科書・参考書等	参考図書: 文光堂「鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ」																																							
成績評価の方法	前期・後期それぞれ実習評価と授業評価により評価する。 ①実習評価: 50%(50点満点) ②授業評価: 50%(50点満点) ※下記の項目に該当した場合、その都度、授業評価から減点する。 ・欠席: 10%(5点)、遅刻・早退: 4%(2点) ・臨床実習記録簿 未提出: 10%(5点)、未記載: 4%(2点) ※該当する箇所1つにつき減点 ・カルテ(施術録) 未提出: 10%(5点)、未記載: 4%(2点) ※該当する箇所1つにつき減点 ※前期後期末試験総合成績 120/200点(60%)以上とする。																																							
実践的教育に関する経歴等	鍼灸院・接骨院の勤務歴あり。																																							

鍼灸スポーツ科学科

授業科目名	アスレチックトレーニング			授業形態	講義	教員	早坂ひとみ		No. 35																																																												
科目区分	選択必修科目	単位	4	時間	60	期間	通年(30回)	対象学年	2年生																																																												
授業概要	アスレチックトレーニング及びアスレチックトレーナーの任務と役割、具体的な業務内容について学ぶ。サポートスタッフ、メディカルスタッフの構成メンバーとその役割について学ぶ。スポーツの組織とその運営について学ぶ。																																																																				
授業の到達目標	アスレチックトレーニング及びアスレチックトレーナーの任務、役割、具体的な業務について学ぶ。コーチ、スポーツドクターの役割とアスレチックトレーナーとの連携について理解し、状況に応じて、行動、正しく判断できるようになる。アスリートに対して、サポートを行うための知識を身につけ、実践できるようになる。																																																																				
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目</td> <td>アスレチックトレーニングとは</td> <td>第16週目</td> <td>防具、補装具 理論:テーピング</td> </tr> <tr> <td>第2週目</td> <td>アスレチックトレーナーの業務: ①スポーツ外傷・障害(分類、メカニズム)②外傷・障害の評価</td> <td>第17週目</td> <td>防具、補装具 理論及び実技:テーピング(手関節、指関節)</td> </tr> <tr> <td>第3週目</td> <td>アスレチックトレーナーの業務:①スポーツ現場における救急処置 ②スポーツ外傷・障害の予防と防具</td> <td>第18週目</td> <td>防具、補装具 実技:テーピング(アーチ、踵部、)</td> </tr> <tr> <td>第4週目</td> <td>アスレチックトレーナーの業務:①アスレティックリハビリテーション ②コンディショニング</td> <td>第19週目</td> <td>防具、補装具 実技:テーピング(足関節)</td> </tr> <tr> <td>第5週目</td> <td>アスレチックトレーナーの業務:測定と評価</td> <td>第20週目</td> <td>防具、補装具 実技:テーピング(下腿、アキレス腱)</td> </tr> <tr> <td>第6週目</td> <td>測定と評価 実技:姿勢</td> <td>第21週目</td> <td>防具、補装具 理論及び実技:テーピング(膝関節)</td> </tr> <tr> <td>第7週目</td> <td>測定と評価 実技:関節弛緩性、周径囲</td> <td>第22週目</td> <td>防具、補装具 実技:テーピング(肘関節)</td> </tr> <tr> <td>第8週目</td> <td>測定と評価 実技:タイトネス</td> <td>第23週目</td> <td>防具、補装具 実技:テーピング 復習</td> </tr> <tr> <td>第9週目</td> <td>測定と評価 実技:アライメント</td> <td>第24週目</td> <td>防具、補装具 実技:テーピング 復習</td> </tr> <tr> <td>第10週目</td> <td>測定と評価 実技:アライメント</td> <td>第25週目</td> <td>テーピング 実技テスト</td> </tr> <tr> <td>第11週目</td> <td>アスレチックトレーナーの業務: ①健康管理 ②組織運営 ③教育的指導</td> <td>第26週目</td> <td>部位別傷害:下肢</td> </tr> <tr> <td>第12週目</td> <td>ドーピング</td> <td>第27週目</td> <td>部位別傷害:体幹</td> </tr> <tr> <td>第13週目</td> <td>熱中症、食事、水分補給</td> <td>第28週目</td> <td>部位別傷害:上肢</td> </tr> <tr> <td>第14週目</td> <td>前期期末テスト</td> <td>第29週目</td> <td>後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目</td> <td>後期期末試験の解答</td> <td>第30週目</td> <td>後期期末試験の解答</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>事前に配布された資料を精読しておく。 授業後、特に実技に関しては、理論を熟知し、実際に測定、テーピング出来るよう学習する。 ※講義進行中にテーピングやトレーニング法などの実技を取り入れて実施する場合もあるので、動きやすい服装で参加すること。 ※必要なテーピングの種類や実施時期については授業内で説明する。</p>									第1週目	アスレチックトレーニングとは	第16週目	防具、補装具 理論:テーピング	第2週目	アスレチックトレーナーの業務: ①スポーツ外傷・障害(分類、メカニズム)②外傷・障害の評価	第17週目	防具、補装具 理論及び実技:テーピング(手関節、指関節)	第3週目	アスレチックトレーナーの業務:①スポーツ現場における救急処置 ②スポーツ外傷・障害の予防と防具	第18週目	防具、補装具 実技:テーピング(アーチ、踵部、)	第4週目	アスレチックトレーナーの業務:①アスレティックリハビリテーション ②コンディショニング	第19週目	防具、補装具 実技:テーピング(足関節)	第5週目	アスレチックトレーナーの業務:測定と評価	第20週目	防具、補装具 実技:テーピング(下腿、アキレス腱)	第6週目	測定と評価 実技:姿勢	第21週目	防具、補装具 理論及び実技:テーピング(膝関節)	第7週目	測定と評価 実技:関節弛緩性、周径囲	第22週目	防具、補装具 実技:テーピング(肘関節)	第8週目	測定と評価 実技:タイトネス	第23週目	防具、補装具 実技:テーピング 復習	第9週目	測定と評価 実技:アライメント	第24週目	防具、補装具 実技:テーピング 復習	第10週目	測定と評価 実技:アライメント	第25週目	テーピング 実技テスト	第11週目	アスレチックトレーナーの業務: ①健康管理 ②組織運営 ③教育的指導	第26週目	部位別傷害:下肢	第12週目	ドーピング	第27週目	部位別傷害:体幹	第13週目	熱中症、食事、水分補給	第28週目	部位別傷害:上肢	第14週目	前期期末テスト	第29週目	後期期末試験	第15週目	後期期末試験の解答	第30週目	後期期末試験の解答
第1週目	アスレチックトレーニングとは	第16週目	防具、補装具 理論:テーピング																																																																		
第2週目	アスレチックトレーナーの業務: ①スポーツ外傷・障害(分類、メカニズム)②外傷・障害の評価	第17週目	防具、補装具 理論及び実技:テーピング(手関節、指関節)																																																																		
第3週目	アスレチックトレーナーの業務:①スポーツ現場における救急処置 ②スポーツ外傷・障害の予防と防具	第18週目	防具、補装具 実技:テーピング(アーチ、踵部、)																																																																		
第4週目	アスレチックトレーナーの業務:①アスレティックリハビリテーション ②コンディショニング	第19週目	防具、補装具 実技:テーピング(足関節)																																																																		
第5週目	アスレチックトレーナーの業務:測定と評価	第20週目	防具、補装具 実技:テーピング(下腿、アキレス腱)																																																																		
第6週目	測定と評価 実技:姿勢	第21週目	防具、補装具 理論及び実技:テーピング(膝関節)																																																																		
第7週目	測定と評価 実技:関節弛緩性、周径囲	第22週目	防具、補装具 実技:テーピング(肘関節)																																																																		
第8週目	測定と評価 実技:タイトネス	第23週目	防具、補装具 実技:テーピング 復習																																																																		
第9週目	測定と評価 実技:アライメント	第24週目	防具、補装具 実技:テーピング 復習																																																																		
第10週目	測定と評価 実技:アライメント	第25週目	テーピング 実技テスト																																																																		
第11週目	アスレチックトレーナーの業務: ①健康管理 ②組織運営 ③教育的指導	第26週目	部位別傷害:下肢																																																																		
第12週目	ドーピング	第27週目	部位別傷害:体幹																																																																		
第13週目	熱中症、食事、水分補給	第28週目	部位別傷害:上肢																																																																		
第14週目	前期期末テスト	第29週目	後期期末試験																																																																		
第15週目	後期期末試験の解答	第30週目	後期期末試験の解答																																																																		
教科書・参考書等	①財団法人 日本スポーツ協会公認アスレチックトレーナー 専門科目テキスト1 アスレチックトレーナーの役割 ②財団法人 日本スポーツ協会公認アスレチックトレーナー 専門科目テキスト6 予防とコンディショニング ③配布資料																																																																				
成績評価の方法	前期 ①期末テスト 30% (60点) ②出欠席10%(20点)※欠席-3%(-6点)遅刻-1%(-2点) ③小テスト(実技)5%(10点) 合格基準点以下のものは-5%(-10点)とする ④準備物(テーピング・運動着・インシューズ)5%(10点)※1回忘れたら-1%(-2点)とする。 後期も前期に準じる 上記の前期と後期を合わせた総合評価にて60%(120/200点)以上とする。																																																																				
実践的教育に関する経歴等	①柔道整復師、②接骨院開設、③JATI-AATI、④NSCA-CPT、⑤日本赤十字社救急法指導員 ⑥高校レスリング部トレーナー、⑦高校男子バスケットボール部トレーナー、⑧山形県国体チームトレーナー																																																																				